



子どもの笑顔、未来のために、

きのと **燦** だより

令和5年4月12日
学校だより 第1号
胎内市立きのと小学校

伸びゆく力を育むために、みんなで力を合わせて育てましょう

<https://tainai-kinoto-es.edumap.jp/>



教育は何を目指すか

校長 鈴木 真史

令和5年度がスタートしました。今年度のきのと小学校の様子は、右の通りです。学級担任はもとより、介助員、技能員、スクールサポートスタッフ総勢23名で子どもたちの成長を支えます。

児童数	161名
学級数	9学級
教職員数	23名

さて、昨年度の学校だよりで、「学ぶこと」は「まねること」が語源であることをお伝えしました。「学校は学ぶところ」ですので、たくさんまねをして、自分ができることをたくさん増やして行ってほしいと願っています。

今、学校教育は、昔とは大きく変化しています。

昔の学校は、先生が子どもに教えるところであり、子どもたちは教えられたことを身に付けるところでした。今もこれと変わらない部分もありますが、この学校の在り方のままでは、これからの社会をつくっていく上で問題が生じました。その問題とは、

- 教えられるままで、指示待ち人間になる可能性がある。
- 高度に発展した現代及び未来に必要なことが身につかない可能性がある。
- 新しい価値に気付けなくなる可能性がある。

私が小学生のころは、言われたことをきちんとこなせる人が重宝されました。もちろん今でもそういう人は大切です。しかし、今は、重宝される人の像が変わってきています。その重宝される人とは、次のような人です。

新しい考え方や価値観を自ら考え伝えられる人

つまり、「言われたことをやる人間」から「人に言うことのできる人間」へと社会の要求が変化してきています。

学校では、基礎的な学力を身に付けながらも対話や体験を通して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行っています。タブレットを使った授業では、今までのノートと鉛筆で書いていたことの何十倍もリアルなことが表現できるようになりました。また、小学校周辺には、他にないくらいの体験施設や体験協力事業社（団体）がたくさんあります。こうした環境をフルに活用して、レベルの高い授業を展開していきます。

新年度が始まるにあたって、子どもたちの勉強の意味を改めて考え、ご家庭でもお子さんに適切なアドバイスをいただければ幸いです。「勉強しなさい」ではなく、「こんなことを考えられるとすごいね」というようなアドバイスは、お子さんの学びの心をくすぐること間違いなしです。

今年度もきのと小学校の教育活動へのご協力をどうかよろしくお願ひします。

